



mySAP™ ERPによる新基幹業務を IBM®server® iSeries®上で稼働

アニメーションを製作・販売している東映アニメーション株式会社（以下、東映アニメーション）は、1960年代から現在にいたるまで、数多くのTV用アニメーション映画を手がけてきました。そこからは「ひみつのアッコちゃん」「キャンディ・キャンディ」「Dr.スランプ・アラレちゃん」「ドラゴンボール」「美少女戦士セーラームーン」「ワンピース」など、さまざまなヒット作品が生まれ、膨大なコンテンツを保有する企業へと成長をとげました。そして創立から約半世紀がたった今日、保有コンテンツは8600本を超えて日本では最大、世界でも有数のものとなっています。

お客様ニーズ

コンテンツの収益状況や活用度を体系的に管理できるシステムが必要に

東映アニメーションでは、北米を中心とした海外売上比率増大によるグローバル化が進み、国際会計基準にも、迅速かつ柔軟に対応していかなければなりません。また、DVDやインターネット配信といったデジタルメディアが急速に拡大し、それにとまらぬ著作権ビジネスの多様化に対応するためにも、マルチユースのコンテンツ収益管理システム導入が急務となっていました。

「東映アニメーションでは、海外での売り上げ比率を将来的には50%にアップさせたいと考えています。しかし、既存の国産会計システムでは外貨換算や国際会計基準などのグローバル化に対応することができませんでした。そこでまず、会計システムから変えていくことにしました」と話すのは、吉谷 敏氏（東映アニメーション情報システム室 室長）です。

「次に著作権料管理の必要性を考えました。というのも、著作権ビジネスは『どの権利者に対して著作権料をいくらお支払いするのか?』といった計算が非常に難しいのです。なぜかという、コンテンツというものは、二次利用、三次利用、さまざま

に活用され、その利用方法によって配分金のパーセンテージが違うからです」（吉谷氏）。

そのため、著作権料の計算と管理ができるシステムも必要となったのです。さらにもうひとつのニーズもありました。コンテンツ毎の年間収益管理や生涯収益管理の必要性です。「物販会社であれば、商品別、得意先別の管理で済んでしまうと思います。しかしコンテンツの場合、メディアごとの売上軸とともに、会計年度を超えた時間軸や国別収益の地域軸も合わせたマトリックスによる収益管理が必要となってきます」（吉谷氏）

そこで、これらのニーズすべてを解決できるソリューションとして、マルチユースのコンテンツ収益管理システム導入の検討がはじめられました。

ソリューション

多言語、多通貨に対応したmySAP ERPを選択

マルチユースのコンテンツ収益管理システムを構築するにあたってERPパッケージの導入が検討されました。そこで東映アニメーションが選んだのは、SAP®社のmySAP ERPです。

「単一データベースの中でリアルタイムにデータを見たいという要望があったため、それができるERPの導入を考えました。また、グローバル化による『海外売上比率拡大』という目標もあり、外貨換算などが簡単にできる多言語、多通貨、国際標準準拠のERPパッケージが絶対条件でした。そう考えたとき、mySAP ERPがもっとも適合していたのです。さらに、世界における導入実績や将来性、強力な拡張性もSAP社のERPパッケージを選択した決め手となりました」（吉谷氏）

信頼性が高くTCOが低いiSeriesの導入でシステムを一元化

mySAP ERPを稼働させるサーバーとして選ばれたのはiSeriesです。「ビジネス・パートナーさんか

Overview

◆チャレンジ

- ・多様化する著作権ビジネスのマルチユース収益管理
- ・外貨換算や国際会計基準などグローバル化に対応した会計システム
- ・コンテンツ著作権料の管理と配分の自動計算ができる柔軟性
- ・会計期間を超えた年間収益管理や生涯収益管理の必要性

◆ソリューション

- ・インダストリー：コンテンツ制作
- ・適用業務：mySAP ERP
- ・ソフトウェア：UDB® DB2®/400
- ・ハードウェア：IBM®server iSeries モデル825

◆効果

- ・mySAP ERPとIBM®server iSeriesによる、マルチユースのコンテンツ収益管理システムの実現
- ・ドリルダウン機能による発生源の容易な検出
- ・リアルタイム入力による作品別、事業別、得意先別、国別のオンデマンドな収支管理の実現
- ・著作権の収益配分計算の自動化、リアルタイム会計連動
- ・メディア別/国別収支管理コンテンツの、マルチユースでの予実管理の実現
- ・会計システムの国際会計基準準拠による、グローバル企業基盤の確立
- ・iSeries高可用性、スキル資源の有効活用によるTCO削減

らはPCサーバーを勧められたのですが、それまで20年近くAS/400を稼働させていたので、その信頼性の高さを評価していました」と話すのは、平川賀子氏（東映アニメーション情報システム室）です。

iSeries導入の決め手について吉谷氏が続けます。「PCサーバーとiSeriesを比較して5年間のTCOを算出して結論をだしました。たしかに導入に関していえば、iSeriesのコストメリットはあまりありませんでした。しかし『稼働してから我々のスキルだけでやっていけるのか』と将来を見据えた見えないコストも考慮した結果iSeriesが有利と判断し、選択したのです」

また、平川氏はiSeriesの堅牢なセキュリティ機能にも魅力を感じたと話します。「基幹系システムなので、一番怖かったのがウイルス。そこで、高度なセキュリティ機能を搭載しているということもiSeries選択の後押しをしてくれました」



東映アニメーション システム室

"単一データベースの中でリアルタイムにデータを見ることができるほか、外貨換算などが簡単にできる「多言語、多通貨、国際標準準拠のERPパッケージ」というのが絶対条件でした。そう考えたとき、mySAP ERPがもともと適合していたのです。世界における導入実績や将来性、強力な拡張性を持つことも選択した決め手となりました。"

東映アニメーション株式会社 情報システム室 室長
吉谷 敏 氏

導入効果

販売データと会計のリアルタイム連動でマルチユースでの予実管理が可能に

「iSeriesを開発、本番、テスト環境という3つのパーティションに区切り各業務を並行稼働していますが、まったくパフォーマンスを意識せず、同時に稼働を続けています。また、iSeriesの高可用性は生産性の向上に役立っています」(吉谷氏)

以前は一式で起こしていた伝票が、データの入口から明細の会計伝票を起票することによる効果もいくつか出てきています。

「前会計システムに比べると本当に見やすくなりました。ドリルダウンして末端の伝票まで見られるので、目的の伝票をすぐに探し出すことができます」と平川氏は話します。リアルタイム入力によって、作品別、事業別、得意先別、国別にオンデマンドな収支管理を実現することができたのです。また、手作業を中心にした著作権の収益配分計算も自動化でき、リアルタイムに会計と連動することも可能となりました。それまでは苦勞していたメディア別や国別のコンテンツ収支管理や、二次利用、三次利用といったマルチユースでの予実管理が可能となったのです。また、収益配分の自動計算と会計とをオンデマンドに連動できるようになったことで、ワンソース・マルチユースと管理業務の合体が実現したのも大きなメリットです。

さらに、社員の意識変化という導入効果も現われています。「リアルタイムでの入力を要求されるようになり、全社的に『スピード感のある業務』体制へと変化しはじめてきています。著作権料に係わる契約内容を登録したために、契約に対するコンプライアンス意識強化という思わぬ効果もありました」(吉谷氏)

将来展望

作品データベースとの統合化を推進してオンデマンド・ビジネスの実現へ

既存の作品情報データベースとの統合化も同社での懸案事項となっています。「現在、『マルチメディア・データベース』という作品情報データベース・サーバーが稼働しているのですが、権利者関連の情報はまだまだ不完全の状態です。今後、こうした情報を含め1つのデータベースに統合していくことを検討しています。画像をはじめ、さまざまな作品に関する情報をデータウェアハウスとして蓄積すれば、ビジネスに大いに活用できると考えています。」(平川氏)

コンテンツのマルチユース状況も、SAP Business Intelligenceのようなコンポーネント追加により、収益分析、意志決定支援などに役立っていくのではないのでしょうか。

そして、今後は膨大なコンテンツデータから、より多くの価値を導き出すことで、ビジネス・イノベーションを推進する、オンデマンド・ビジネスを実現していきます。



日本アイビーエム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

06-05 Printed in Japan

<http://www.ibm.com/jp/>

IBM、@server、iSeriesは、DB2、IBM Corporationの商標。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。
このカタログの情報は2005年6月現在のものです。
製品、サービス等詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。

●当カタログに記載のデータは、すべての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境、その他の要因によって異なります。●掲載されている製品・サービスはIBMがビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。また国・地域によってはご提供条件が異なる場合がございます。詳細は各国IBMにお問い合わせください。●掲載された情報は2005年6月現在のものです。事前の予告なく変更する場合があります。●当カタログに記載の肩書きや数値、固有名称等は英語版掲載時のものであり、変更されている可能性があります。

© Copyright IBM Corporation 2005
All rights reserved.



© Copyright 2005 SAP AG
All rights reserved.

SAPおよびSAPロゴ、mySAP、mySAP.com、SAP NetWeaver、xAPPs、xAPP、その他記載のSAP製品およびサービスは、ドイツおよびその他の国におけるSAP AGの商標または登録商標です。



G588-2658-00